

地域包括ケアシステムの推進に向けた取組の進捗状況

		町連	地区社協	地区の特徴	これまでの取組	方向性	3 1 年度の取組		
5 地区の地域づくり	稲田町連		菅地区	<ul style="list-style-type: none"> 菅町会で全域をカバー 小地域に区分できるが代表はなし まとまりはあり町会活動は活発 町会加入率は5割未満 骨子の定まった方針が提示できれば町会としての受け入れ可能性高まる 梨園の跡地の宅地化などにより民間介護事業所（主に有料老人ホーム）が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○町会ヒアリング調査（1町会） 菅町会は10の小地区で構成。地域行事などを行う単位となっている。規模を活かし全体に対する事業実施が町会の基本方針。近隣での仲間意識を持ってもらうことを重視し活動を展開。防災にも力を入れている。 ○包括支援センター・菅の里の地域づくりの支援 高齢者施設・事業所との情報交換会への参加やカフェの立上げ支援など。 ○キーパーソンヒアリング（民協、町会役員、社協、集合住宅関係など） ○菅町会大運動会でのオープンワークショップ（シール投票アンケート） 町会ヒアリングと一般住民の意識の差、山側と平地側の違いの把握。 ○地区活動グループへの活動支援（公園体操交流会・体力測定会の支援など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○菅町会への継続的アプローチ 町会ヒアリングのフォロー、町会活動への参加、キーパーソンヒアリングやオープンワークショップの結果の共有など町会との関係をつくりながら地域の実態調査を継続していく。町会への直接的な働きかけは慎重に検討する。加入率の低さなど町会が抱える課題に対し、地域包括ケアシステムが有用であることを知ってもらうことで連携の道を開いていく。 ○集合住宅へのアプローチ 町会から小地域への介入が難しいため、高齢化率が高い集合住宅での具体的な取り組みに向けたきっかけづくりについて検討する。 ○地区活動グループなどへの支援継続 ○居場所づくりなど地域包括支援センターと連携した地域活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○菅町会への継続的アプローチ 町会行事への参加など接点を持ち、実情や課題など情報収集を継続する。 ○キーパーソンヒアリングの継続による地域の全体象の把握 地域のキーパーソン（町会役員、民生委員、子ども関係など）に話を聞き、地区の実情について情報を収集する。 ○集合住宅へのアプローチ 芝間住宅で行われているみまもり活動の手法を参考にふじのき台など山側の分譲住宅で具体的な行動にするため、情報提供や人つなぎなどの支援を行い、推移を見守る。 ○包括支援センター・菅の里と連携した取組 情報交換会を年4回の打ち合わせを予定しており、双方の情報交換を行い、民間介護事業所の活用などを検討する。 		
				中野島地区	<ul style="list-style-type: none"> 中野島町会と市営住宅自治会で構成 地区全体でのイベント 一部で高齢化などの課題が顕著 東京都健康長寿医療センター研究所との「中野島多世代つながり愛プロジェクト」 	<ul style="list-style-type: none"> ○「中野島多世代つながり愛プロジェクト」の推進 多世代で支え合うまちづくりを目指し協議会運営、あいさつ運動、まちプロ、ノルディックウォーク講座など複合的な働きかけを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト協議会 ・あいさつ運動 ・まちプロ養成講座 ・中野島ファミリーカフェ、ひよっこりガーデン・ノルディックウォーク ・中野島多世代つながり愛フォーラム ○研究所との協定終了後の体制検討 ○多世代が安心して暮らせる地域づくりに向けた調査の実施 研究開始時と介入後の効果測定のためアンケート調査の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中野島多世代つながり愛プロジェクトの活動継続と整理 東京都健康長寿医療センター研究所との「中野島多世代つながり愛プロジェクト」を引き継いだ地域づくりを進めていく。現行活動の継続を基本としながら必要な整理を行い、中野島プロジェクト協議会を中心に愛着を持って住み続けたいと思う中野島を目指した取組を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会運営の体制整理 協議会を中心に中野島における地域づくりの理念の共有と今後の具体的な方針について検討する。次年度に向けた準備期間という位置付けで、年度内に協議会を2回開催する。 ○中野島多世代つながり愛フォーラムの開催 協議会参加団体同士が互いの活動を知り合うことを目的に実施する。 ○あいさつ運動、まちプロ活動の支援など現行活動の継続 プロジェクトの理念の実現に向けて諸々の活動の積み重ねていく。 	
					登戸地区	<ul style="list-style-type: none"> 10町会により構成され、小田急線、世田谷町田線を境とする集団をゆるやかに見いだせる 町会ごとの取組は類似、一部で連携や登戸連合町会での取組あり 役員や活動の担い手不足はどこも課題 登戸区画整理事業の対象地域は活動難しい 町会によっては居場所づくりなど地域ニーズを具体化する力あり 集合住宅が多く、ターミナル駅に近く人の出入りが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○町会ヒアリング調査（10町会） 登戸地区の町会は道路（県道3号線世田谷町田線）と鉄道（小田急線）を境とした3つのエリアに分類できることが判明。エリア内の町会では防災訓練やお祭りなどの連携あり。 ○地域カフェの立上げ支援 グランドカフェ、登戸新川カフェ花みずきなど。 ○地縁団体・関係機関との情報交換会 町会や福祉施設など関係者を集めた意見交換会を登戸包括主催で開催。 ○キーパーソンヒアリング（民協、町会役員、商店街など） ○のぼりとミーティング 地域で行われている活動を知り自身の活動のヒントにしてもらうため、地区で活動する団体などに声をかけミーティングを開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実態調査の継続 町会以外にも対象を広げたヒアリングを進め、地域ニーズや人材把握など情報収集を継続する。また、道路や鉄道など地形的な要素で、登戸地区をさらに細かいエリア単位で括る可能性を探る。 ○居場所づくりの支援 地域の公共スペースを有効活用したいというニーズと身近な居場所が欲しいというニーズが結びつき地区内に地域カフェなどを立上げる機運が高まっている。先行事例のノウハウなど情報をつなげる役割を果たし住民の具体的な行動を支援する。 ○地区内での情報交換・交流の促進 活動紹介の場を定着させ地区内の団体・人の交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キーパーソンヒアリングの継続による地域の把握 地域のキーパーソン（民生委員、町会関係、商店街など）に話を聞き、地区の実情について情報収集を行う。 ○地域カフェなどの立上げ支援 地域カフェなど居場所づくりに関する住民主体の活動を地区に広げるための支援を行う。 ○のぼりとミーティングの開催 地区内の団体や人の交流を促進し、それぞれの活動を活性化するためのヒントを得る機会をつくる。
						稲田地区	<ul style="list-style-type: none"> 宿原原・長尾・堰の大町会と小規模町会で構成 町会ごとの取組は類似しており、連携もあるが考え方はバラバラ、地区全体としてのまとまりは薄い 地域ごとに住民のまとまりや意識に差がある 役員や活動の担い手不足はどこも課題 	<ul style="list-style-type: none"> ○町会ヒアリング調査（8町会） 各町会の活動や町会間の関係性などを整理。お祭や防災関係など特定分野では町会をまたいだ連携があるが、地域ごとに抱える課題や住民の意識、担い手の層など差異があり、稲田地区全体としてのまとまりは薄い。 ○長尾町会、長尾台住宅自治会への働きかけ 長尾台時住宅自治会で「これからの長尾を語ろうみんなの集い」、認サポ、運動、講座等を長尾会館で開催。 ○長尾台住宅自治会でのアンケート調査 長尾台住宅自治会（279世帯）を対象に住民アンケート調査実施。設問づくりや配布回収など、実施主体の自治会と綿密な打ち合わせを重ねて実施。 ○県営住宅ハイム桃園自治会ヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ○実態調査の継続 町会ヒアリングや住民との対話を通じ、地域ごとの住民意識の差など実態把握が進んできており、継続的に調査を行う必要がある。 ○長尾台住宅自治会の取組 長尾台住宅自治会の取組に寄り添い、住民が抱える不安や課題を解決する具体的な行動につなげるための支援していく。 ○他地域への進め方 長尾地区での取組（認サポ、アンケート、ワークショップ、その他講座など）をパッケージのようにして、他の地域にも提案を行う。長尾、堰、宿原原のそれぞれのエリアを会場に年度ごとに集会を行う構想。
生田町連	生田地区	<ul style="list-style-type: none"> 63の大小さまざまな町会やマンション管理組合があり、団体の構成や活動の濃さも様々 居住環境も様々 町連1つ、地区社協1つ、民協3つ 町連や活動の活発な町会を通じ、情報の共有や活動の連携を広げられる土壌あり 全体への働きかけが可能 非常に活発な町会は3割くらい、その他の町会に対する働きかけが課題 	<ul style="list-style-type: none"> ○かりがね台モデル事業 地域課題の共有し課題解決に向けたプロセスを通じた地域づくりを実施。 ○生田地区町会連合会町会・自治会長会議 地区担当保健師と町内会・自治会会長による意見交換会を実施。 ○生田ご近所パワーアップ会議 かりがね台モデル事業と生田地区町連勉強会をもとに、地区全体で地域課題を考えることを目的に生田地区町連を対象に連続講座を開催。 ○生田ご近所パワーアップ集会（生田第2地区民協区域） 地域を細分化した取組として、民協区域単位で3大学と連携し、身近な地域の活動や課題について考える住民向けの集会を開催。 ○町会ヒアリング調査（※進行中 12町会／63町会） 生田地区の各町会の活動や課題、町会間の連携や関係性などを聞き取り、町会を中心とした視点での地域の実態を調査。 				<ul style="list-style-type: none"> ○生田地区町会連合会と連携した地区全体の取組 単一町連で7万規模の人口を組織、活発な町会活動という土壌を活かし、地区全体として地域づくりを進める。定期的に町連会議の場で地区の取組を報告する。 ○細分化した枠組みでの取組 「活発な活動のさらなる底上げ」と「活動が乏しく参加がない層の対策」を目指し、小地域での継続的な基礎調査の実施、より生活圏に近い課題につなげるため地区を細分化した取組、地区活動の後押しを進めて行く。 ○近隣町会同士の連携促進 近隣同士が連携した取組があり、ある程度まとまった地域で生活支援の仕組みを構築する可能性を探る 	<ul style="list-style-type: none"> ○町会ヒアリングの継続 平成30年度～32年度の3か年計画で63町会のヒアリングを実施。ヒアリング結果を町会と共有する。 ○生田ご近所パワーアップ集会の開催 民協区域ごとに、地域で活躍する活動の紹介などの住民向けの集会を、地区ごとに立地する大学と連携して開催する。（3民協があるため1年1地域の3か年計画） ○地区活動の支援 地区活動の支援を継続する。 ○年間の取組の報告 生田地区町会連合会の会議の場で年間の取組について報告会を実施する。また住民に向けた報告として取組をまとめたレポートを作成し回覧する。 	

平成30年度下半期の主な取組

生田地区 生田ご近所パワーアップ集会

目的：身近な地域の活動や課題について考える

開催日：平成30年12月1日（土）13：30～16：00

場所：日本女子大学生涯学習センター

参加者：125人

プログラム：事例紹介（8団体）、休憩・相談会

余興（ミュージックベル演奏）、パネルディスカッション

**中野島地区 中野島多世代つながり愛フォーラム**

目的：協議会参加団体のお互いの活動を知る

開催日：平成31年2月23日（土）10：00～12：00

場所：中野島会館

参加者：75人

プログラム：活動紹介（5団体）、オープンワークショップ・講評

休憩・交流会、余興（フラダンス）

**登戸地区 のぼりとミーティング 2019**

目的：地域で行われている活動を知り自身の活動のヒントにしてもらう

開催日：平成31年3月4日（月）14：00～16：30

場所：専修大学サテライトキャンパス

参加者：70人

プログラム：基調講演、パネル閲覧&投票（26団体）、

活動紹介（4団体）、のぼりとなんでもアワード

